佐久市協働のまちづくり推進会議　会議記録（要旨）

日　時：令和８年１０月６日（火）
１１：００～１２：１０
場　所：佐久市役所　南棟３階　大会議室

出席者：佐久市協働のまちづくり推進会議委員７名（欠席３名）
事務局（企画部長、広報広聴課長・広報広聴課職員）
市民活動サポートセンター（さくさぽ）職員　２名

１　開会

２　会長あいさつ

３　会議事項
（１）第三次佐久市協働のまちづくり計画について
事務局：計画の骨子案について説明
【出された意見】
計画案の表記・表現に関する意見
委員：資料概要には『協働という言葉に囚われず、防災や子育てなどのテーマを入り口にする』とあるが、本文に落とし込んだ際にも、その趣旨がハッキリ伝わるよう明記すべきである。
事務局：そのようにしていく。
委員：「関係性が生まれる対話と実践」について、どのような形で機会を持つのか市民にイメージしやすいよう、具体的な事例を示した方が良い。
市民参加・広聴・アンケートの課題
委員：アンケートの回答数が少ない現状において、一部の意見だけではなく裾野を広げることが不可欠である。
委員：商業施設等での現場アンケートなど、幅広い層から直接集計する手法も検討すべきである。
委員：各団体の個別課題を集めるだけでなく、市として目指すべき方向性や魅力あるテーマを提示することで、市民が共感して参加したくなるきっかけを作るべきである。
市民と行政の距離感、参画環境の改善について
委員：市民の中には市役所に相談するということが緊張する方もいる。市役所の一部を中高生の学習・交流スペースとして開放することや職員と対話・交流できる機会を継続的に作るなど、市民と市が近づく仕掛けが欲しい。
市が目指す姿の明確化と支援金のテーマ設定について
委員：市民の個々の活動は素晴らしいが、年齢・性別・地域ごとに異なる個別の課題や要

望を単に積み上げるだけでは、必ずしも市全体の課題解決や目指すべき姿に直結しないと思う。アプローチの順番として、まずは市民の意見を聴取しつつ市として目指すべき将来像や認識している課題を提示することが先決であり、その目指すべき姿をベースとし、それに沿った形のテーマを設定して活動や提案を募る形にするべきである。

さくさぽ：市民活動の本質は『多様性と自主性』であり、行政の計画を補うためだけに存在するのではない。行政の計画に合致しない活動も否定せず尊重する姿勢が必要。ただし、まちづくり活動支援金などで単年度ごとに重点テーマを設けてメリハリをつける視点は重要である。

市職員の当事者意識と推進体制について

委員：職員自身が当事者意識を持つことが最大の課題。例えば『職員全員から市民と直接繋がるアイデアを募集する』など、自分たちの業務をいかに市民に近づけるか考える機会を設けるべきである。

委員：民間団体と行政が対話し、意見交換する場を設ける中で、市民にも広く参加してもらい、目指す方向性を合わせ、様々な方を巻き込んで一緒に企画を作り上げる対話の場を創出するのが良いのでは。

委員：佐久市の強みである歴史、医療・農村地域医療の歴史、農業基盤などの要素を活かし、若者や子どもたちが意欲を持てる農業教育や特区的な魅力ある企画を行政が全庁的に提示すべき。単に地域に散らばった意見を拾うだけでなく、『佐久市はこうしたい』という大きなベクトルを示すことが重要。

まとめ　今回の会議で出された意見・提案を踏まえ、事務局において「骨子案」の修正・ブラッシュアップを行い、計画を策定していく。

4　連絡事項

5　閉会